教育職員免許法施行規則第22条の6による情報の公表
http://www.urawa.ac.jp/about/provision.html

1. 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること。（施行規則第 22 条の 6 第 1 号）

1　大学としての教員養成の目標

浦和大学では、「実学に勤め徳を養う」の建学の精神に基づき、豊かな人間性と幅広い教養を備え、確かなこども理解に裏付けられた実践的な指導力を身に付け、現代の学校教育をめぐる諸課題に対応できる教員の養成を目標とする。

具体的には、次の資質・能力を備えた教員の養成を目標とする。

(1) 豊かな人間性と教育に対する熱意を有し、教育職員としての使命感、倫理感を持って行動できる。
(2) 幅広い教養を備え、教職に必要な基礎的・専門的な知識と技能を身に付ける。
(3) こどもの発達や心理、特別な配慮が必要な幼児、児童及び生徒の理解を踏まえた、実践的な指導力を身に付ける。
(4) 学校運営及び学校と家庭や地域との連携の意義について理解し、学校組織の一員として他の教職員と協働して教育活動を担う姿勢を身に付ける。
(5) 変化する社会の中で、教育的課題の解決と自らの指導力の向上を目指して、不断に学び続ける姿勢と意欲を備える。

2　各学科における教員養成の目標及び目標を達成するための計画

(1)こども学部学校教育学科

ア　教員養成の目標

学校教育学科では、児童の教育に従事するために必要とされる高度な専門的知識と実践的指導力を身に付けるとともに、複雑化する学校教育をめぐる諸課題に対応できる小学校教員の養成を目標とする。

具体的には、次の資質・能力を備えた小学校教員の養成を目標とする。

①人間・社会・自然の各分野に関する基礎的な知識と現代社会に対応した情報リテラシーや児童に関する専門的知識を修得し、初等教育に対して明確な目的意識を持って努力し、協調性ある社会人となる自覚を持つ。
②児童の心身や言動から発せられる表現・問いを先入観にとらわれることなく感受できる自由な心を有し、個々の児童に信頼を育むような態度を身に付ける。
③小学校教育の実践において役立つ多様な技能・技術を身に付け、それを児童への関わりに活かすことができる。

イ　目標を達成するための計画

上記の目標を達成するために、小学校教員として必要とされる専門的知識、多様な技能・技術を身に付け実践できるよう 1 年次から教育職員としての自覚を促し学びに対する積極的態度を養うため、教育の基礎的理解に関する科目や教科及び教科の指導法に関する科目を配置し、学年進行に従って無理なく学びを深められるよう、履修順序に配慮した授業科目の配置、幅広い教養の修得を目指す教養科目を配置する。

また、教育インターンシップ（チャレンジスクール、アシスタントティーチャー）を 1 年次より、教科等指導法を 2 年次から体系的に配置し、それらを関連付けながら 3 年次で履修する教育実習でその学修成果を総合的に活用し、小学校教員としての基礎的な能力と実践力を高める。

さらに、ICT 機器を設置し教科等指導法において積極的な活用が図られるよう環境を整え、小学校教員として通用する情報機器の操作技能を身に付ける。これらの技能の習熟を通して、情報収集・選択と活用を通じて自らの疑問や課題を探究し、卒業研究に結実する成果につなげる。

(2)こども学部こども学科

ア　教員養成の目標

こども学科では、幼児教育に関わる専門的知識及び技能・技術を基盤とする実践力を身に付け、複雑化する現代のこどもをめぐる諸課題に対応できる幼稚園教員の養成を目標とする。

具体的には、次の資質・能力を備えた幼稚園教員の養成を目標とする。

①こどもの最善の利益を尊重する視点に立ち、幼児期から小学校就学までの発達や学びを連続性において理解し、こどもの成長・発達を援助することができる。

②こどもの文化に関する基礎的な知識を修得し、豊かな幼児教育を構想し実践できる多様な技能・技術を身に付ける。

③家族、地域社会、そして現代社会との関係でこどもを理解する視点を持ち、地域社会と連携した乳幼児教育を実践できる。

イ　目標を達成するための計画

1 年次では 4 年間の教職課程教育を含む大学での学びの見通し、キャリアデザインの設計についての理解を図るとともに、こども理解の基礎となる観察や記録の方法、こどもを一人の人格として尊重するこども観、発達を踏まえた学修を支える保育のあり方、児童文化財等について学ぶ。1 年次後期から 2 年次では教育の原理や方法、保育内容とその指導法、特別な支援を要するこどもの保育等について、2 年次後期から 3 年次では保育内容の指導をより深めるため専門的領域の学び、教育課程や指導計画、教職の意義や職業的特徴、教育の制度等について学ぶ。教育実習は 3 年次後期と 4 年次前期に配置されているが、1 年次からの学内親子ひろば「ぽっけ」への参加、2 年次後期から 3 年次後期にかけて保育

実習が行われるため、1 年次から理論と実践・実習の往還的学びが可能となっている。4 年次後期には「保育・教職実践演習（幼稚園）」において 4 年間の学びを振り返るとともに、教職に就くに当たっての自己課題の明確化を図り、教員としての就職へとつなげている。

(3) 社会学部現代社会学科

ア　教員養成の目標

現代社会学科では、現代社会の諸課題を直視し、情報を収集し活用しながら客観的に物事をとらえ、判断できる力を養い、中等教育段階の生徒に対する社会科・公民科教育を通じて、その能力を発揮できる教員養成を目標とする。

具体的には、次の資質・能力を備えた中学校教員、高等学校教員の養成を目標とする。

①日本と世界の歴史や地理、政治や経済等の観点から日本と世界を俯瞰する力や、報道やメディアの情報を適切に収集し判断する力を身に付ける。

②中等教育段階の生徒に対する理解と現代社会の諸課題に対する認識を深め、生徒に寄り添い、生徒と共に課題の解決に向けて探究していく姿勢を備える。

③社会科・公民科の教師に求められる教科に関する知識の修得とともに、適切な教材開発や教育方法を工夫できる総合的・実践的な指導力を身に付ける。

イ　目標を達成するための計画

中学校､高等学校で必要とされる教科に関する知識と実践的な指導力を身に付けるため、教科に関する専門的事項に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目を順次配置するとともに､1～2年次には学部の基盤科目において社会的存在としての人間理解を深める。2年次には、教育の基礎的理解や教科専門に関する科目に加えて教科指導法を学び、2日間の学校体験活動を行うことにより、3年次の教育実習に向けた学修を行う。

また、2年次以降は「メディア」「観光・文化」「社会・経営」の 3 フィールドの科目を開設し、多様な角度から現代社会について学べる学士課程教育が教科に関する知識の基盤となるように配置している。4年次には「教職実践演習」によって教職課程での学びを振り返り、教員としてさらに高めたい実践的能力や教科知識について自ら把握し学修を続ける。